

## 胸腺上皮性腫瘍WHO分類についての検討

著者	小貫 琢哉, 山本 達生, 中村 亮太, 小澤 雄一郎, 薄井 真悟, 酒井 光昭, 石川 成美, 鬼塚 正孝, 榊原 謙, 南 優子, 飯嶋 達生, 野口 雅之
雑誌名	日本呼吸器外科学会雑誌
巻	17
号	3
ページ	329
発行年	2003-04-01
権利	日本呼吸器外科学会
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00134969">http://hdl.handle.net/2241/00134969</a>

## P-001 胸腺上皮性腫瘍 WHO分類についての検討

<sup>1</sup>筑波大学 附属病院 呼吸器外科, <sup>2</sup>同大学 臨床医学系 外科, <sup>3</sup>同大学院 医学研究科, <sup>4</sup>同大学 基礎医学系 病理

小貫 琢哉<sup>1</sup>, 山本 達生<sup>2</sup>, 中村 亮太<sup>1</sup>, 小澤 雄一郎<sup>1</sup>,  
薄井 真悟<sup>1</sup>, 酒井 光昭<sup>1</sup>, 石川 成美<sup>2</sup>, 鬼塚 正孝<sup>2</sup>,  
榊原 謙<sup>2</sup>, 南 優子<sup>3</sup>, 飯嶋 達生<sup>4</sup>, 野口 雅之<sup>4</sup>

【背景】近年, 胸腺上皮性腫瘍 WHO 分類の臨床上的の有用性が検討されている. 当院の症例を WHO 分類で再評価し, 臨床上的の有用性を検討した. 【対象と方法】1988年3月～2002年12月までに病理学的に診断された胸腺上皮性腫瘍70例(男41, 女29), 年齢19～76歳(平均54歳), 平均観察期間72ヶ月. 重症筋無力症(MG)合併22例. 胸腺腫60例の正岡分類内訳はI・21例, II・23例, III・11例, IV・5例. これをWHO分類で再分類し, 正岡分類との比較, MG合併との関係, 周囲臓器浸潤の有無を検討. 【結果】WHO分類の内訳はType A・7例, AB・13例, B1・11例, B2・13例, B3・13例, C・10例, 分類不能3例. 症例を<1>Type A, AB, B1群と<2>Type B2, B3, C群分けると, <1>の臨床病期は早期が多かった. <2>は周囲臓器浸潤が多かった. それぞれ $p < 0.001$ . WHO分類とMG合併に関連性はなかった. 胸腺腫術後再発はType B3の3例. 死亡例はType Cの4例. 【結語】WHO分類は臨床所見, 病期と強く関連し臨床的に有用と考えられた.